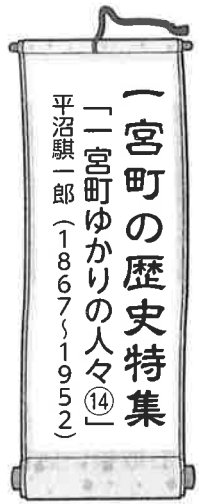


「広報文化財コラム」一宮の歴史特集」②

令和元年 6月号



一宮町の歴史特集
「一宮町ゆかりの人々」⑭
平沼驥一郎（1867～1952）

平沼驥一郎は備前津山藩（岡山県）藩士の家の出身で、司法界で活躍した政治家です。

平沼を一躍有名にしたのは、昭和14年（1939）1月に第1次近衛文麿内閣の後継内閣として、首相に就任したときです。当時の日本は泥沼化する日中関係、悪化する日英・日米関係など外交面で大きな課題を抱えていました。これらの直面する問題の解決を試みるも、情勢は一向に好転せず、対ソ連、防共（共産主義）という点でドイツとの連携を模索します。日本国内でも親独派・親英米派の対立、海軍省・外務省と陸軍省の対立と政治状況は混とんとしていました。そのような中で8月、突如ドイツがソ連と独ソ相互不可侵条約を締結すると、平沼は「欧州情勢は複雑怪奇」という声明とともに内閣を総辞職しました。

その後は枢密院議長として終戦を迎え、A級戦犯に指定され巣鴨刑務所に入所、東京裁判で終身禁固を宣

告されます。病気のため仮釈放ののち、昭和27年（1952）に亡くなりました。

一宮では一宮川右岸、現在の中ノ橋南側あたりに別荘を有していましたが、現在跡地には石碑が建立されています（一宮93007付近）。

写真の扁額は平沼が玉前神社に奉納したものです。現在は玉前神社の参集殿に飾られています。

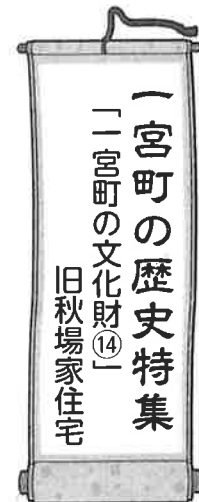


▲平沼の書「皇明光日月」。出典は現存最古の漢詩集『懐風藻』^{かいふうそう}（奈良時代）の弘文天皇（大友皇子）の詩歌とみられる。

【問合せ】

教育課 ☎(42)1416

令和元年 7月号



一宮町の歴史特集
「一宮町の文化財」⑭
旧秋場家住宅

旧秋場家住宅は東浪見地区の国道128号沿いにあります。

秋場家は江戸末期から造り酒屋を営んでいた旧家で、かつては網元をつとめていた家です。

敷地は東西に約140m、南北に約55mで、南西の隅に長屋門が、その北側に主屋、東側に土蔵が建っています。敷地は屋敷林に囲まれており、主屋の西側には石灯笼・築山などをそなえた庭園が配されています。

平成29年（2017）6月、主屋、土蔵、長屋門の3棟の建物が国の登録有形文化財となりました。主屋と長屋門は明治前期の1900年頃、土蔵は天保13年（1842）の建築とみられています。現在はイベントスペースやギャラリーなどとして活用されています。

なお、秋場家が所有していた古文書は「秋場家文書」(1,544点)として、千葉県文書館に保管されています。

※現在は外観のみ見学が可能です。



▲旧秋場家住宅主屋外観



▲旧秋場家住宅主屋内観

【問合せ】

教育課 ☎(42)1416